



年賀状（年賀はがき） 年始の挨拶を簡略化



年始の挨拶を簡略化したのが「年賀はがき」。その歴史は、郵便制度が登場した明治時代からで、もう百年以上になります。電話やメールで手軽に連絡ができる時代でも、手間暇かけて届いた年賀状には、一味違う喜びがあります。せっかく送るなら、年賀状作りを楽しんで、相手に真心が届く素敵な年賀状にしたいものですね。また、相手に応じて言葉使いや服装を気遣うように、そうした年賀状も相手によって使い分けると、上手にアプローチできます。

◆ 印刷文の選び方

年賀状には必ず「賀詞」を書きます。年始の挨拶としてふさわしい賀詞を選びましょう。

【文章の賀詞】「明けましておめでとうございます」「新年おめでとうございます」「新春のお慶びを申し上げます」「謹んで初春のお慶びを申し上げます」「謹んで新春のご祝詞を申し上げます」

【4文字の賀詞】「謹賀新年」（謹んで新年をお祝い申し上げます）「謹賀新春」（謹んで新しい年をお祝い申し上げます）「恭賀新年」（うやうやしく新年をお祝い申し上げます）「恭賀新春」（うやうやしく新しい年をお祝い申し上げます）「敬頌新禧（けいしょうしんき）」（うやうやしく新年のよろこびをおたたえ申し上げます）

【2文字の賀詞】「賀正」（正月を祝う）「賀春」（新年を祝う）「頌春」（新年をたたえる）「迎春」（新年を迎える）「慶春」（新年を喜ぶ）「寿春」（新年を祝う）「初春」（新しい年）「新春」（新しい年）

【1文字の賀詞】「寿」（めでたい）「福」（幸せ）「賀」（祝い）「春」（新しい年）「禧」（喜び）

※「賀」は相手に対してお祝いを伝える感じになり、「春」は春になりましたねという感じになります。

【英語の賀詞】「Happy New Year」（新年おめでとう）

※「A Happy New Year」（よいお年を）…年が明ける前に使うので、年賀状ではAをつけません。

◆ 賀詞の重複に注意

よくありがちなのが、「迎春」「謹賀新年」などの短い賀詞と「明けましておめでとうございます」などの文章の賀詞を重複して使ってしまうこと。賀詞を使ったら、添え書き（「今年もよろしく」などの文）には賀詞を書きません。

◆ 年賀状の返事

年賀状をいただいたのに、こちらからはお送りしていないときは、すぐに返礼はがきを送りましょう。目上の方なら、返礼というより、遅ればせでも年賀状を出しますが、7日を過ぎて返事を出すときは、年賀状ではなく「寒中見舞い」として返事を出すことになります。

♥ Happy Birthday 12/12・榊 颯馬君 12/12・竹中 新君 12/12・石塚 柊羽君